

## 松山の神楽

松山を歩く

昨年の4月、しばらくぶりに松山神社の神楽を見ました。社境内の神楽殿で繰り広げられる舞いを詰めかけた人々も楽しんでいました。

神楽は神に奉納されるための歌舞のこととされ、神社やお祭りなどで行われるものを「里神楽」と呼ぶとさ

れます。

松山神社は創建1200年の歴史を誇ると伝わり、江戸時代には幕府から神社領10石の寄進があり、村人との結びつきが強まりました。

この神楽はいつ頃から始まったのでしょうか。同神社には1598（慶長3）年の年号と作者名の刻まれた古い面が伝わっており、この面が神楽の始まりを示すのではとする見方もありますが、その可能性を見出すことは難し



松山神社神楽1座目「天狗」

いと考えます。面はこの年号よりさらに古く南北朝時代までさかのぼるとの見解もあります。

同神社には1752（宝暦2）年に諸行事をまとめた「年中御祭事社用帳」がありますが、神楽の記載は見られません。1843（天保14）年から1853（嘉永6）年にかけて千葉県北部を訪ね歩いてまとめられた宮負定雄の『下総名勝図絵』には「2月28日御神楽」と記載されており、この約100年の間に神楽が始められたと考えるのが妥当でしょう。

松山神社の神楽は、最初の「天狗（猿田彦命）」から最後の「メ（七五三）切り」まで12座の舞いで構成され、3時間に及ぶ演目が披露されます。

千葉県無形民俗文化財の旭市鎌数・伊勢大神宮の神楽も「猿田彦」から「出雲切り」の12座で舞われ、これらは「下総十二座神楽」と呼ばれています。

全国的にも神楽が消滅しつつあるとされますが、200年近く続く「松山の神楽」は一時途絶えていたものの、1976（昭和51）年に18年ぶりの復活を遂げ、コロナ禍を経て継続されています。舞いを見つめながら末長く続いてほしいと感じました。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

## ◆松山神社神楽（匠瑗地区松山）

4月13日（日）12時30分～お練り13時～演目開始 全12幕。市指定無形民俗文化財。

関秘書課広報聴班 ☎73・0080